

# 教 育 研 究 業 績

氏名 地引 優香

学位：MA in International Higher  
Education and Intercultural Relations

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
教育学 言語学	教育学 教育社会学 外国語教育	
主要担当授業科目	留学前ゼミナール、留学後ゼミナール、異文化コミュニケーション、Grammar、ビジネス英語1・2、English Discussion	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例 1) 国際教育における目標設定	2018年1月 ～ 現在	留学プログラム参加学生が目標設定を行い、定期的に振り返ることで留学の効果を高める教育実践を行っている。
2 作成した教科書、教材 1) 留学 Goal Setting Project ワークシート教材	2018年1月 ～ 現在	留学先での目標設定と振り返りのための教材。留学生在が経験するチャレンジ、留学後の効果的な過ごし方、キャリアとの関係性の知見に基づいて執筆。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
1) 留学プログラム現地運営	2017年8月 ～ 2020年3月	アメリカ、ボストンを拠点に日本人を主とする留学生支援。 (主な業務) <ul style="list-style-type: none"> <li>• 空港送迎、文化施設訪問校外学習の引率</li> <li>• 到着オリエンテーション補佐、寮のツアー</li> <li>• 学内アメリカ文化体験イベントの運営</li> <li>• 地域交流イベントの運営</li> </ul>
2) ホームステイ事業	2019年1月 ～ 2019年6月	(プログラム概要) 春休みを利用した、ボストンホームステイ語学研修におけるホームステイの斡旋と生活支援。立命館大学(20名)、400名以上の中高生(日本(4グループ各60-80名)・中国(10名)・フランス(40名)・グアドループ(20名)・デンマーク(80名))の受け入れを実施。 (主な業務) <ul style="list-style-type: none"> <li>• 空港迎え</li> <li>• ホームステイオリエンテーションの実施(日本語)</li> <li>• ホームステイ参加学生からのホームステイアンケートの回収とプログラム評価の実施</li> <li>• 新規ホストファミリーのリクルートメント</li> </ul>
3) 海外留学派遣事業	2019年9月 ～ 現在	(主な業務) <ul style="list-style-type: none"> <li>• 留学フェアでの説明、宣伝活動</li> <li>• 教員引率留学プログラムの企画補助</li> <li>• アプリケーションの受付</li> <li>• パスポート確認等の渡航準備手続き作業</li> <li>• 派遣前オリエンテーションの実施</li> </ul>
5 その他		
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1) 中学校教諭一種免許状(英語)	2017年3月	平28中1第3268号
2) 高等学校教諭一種免許状(英語)	2017年3月	平28高1第3862号
3) 児童英語教員 昭和女子大学英語コミュニケーション学科認定	2017年3月	認定番号 T-2017-7
4) Higher Education Teaching Certificate (Harvard X)	2020年2月	認定番号 2320169547

2 特許等				
3 実務の経験を有する者についての特記事項				
4 その他				
研 究 業 績 等 に 関 する 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1 2 3 :				
(学術論文) 1 Supporting International Students in the Times of Global Crisis. Diversity Abroad. (ウェブ掲載論文)	共著	2020年10月	Diversity Abroad	(1) (タイトル日本語訳) 「世界的危機下における留学生支援」 コロナ禍の世界危機は留学生危機とも状況下である。しかし、国際教育交流は9.11アメリカ同時多発テロや2008年のリーマンショック等の近年の世界危機を乗り越えてきた。過去の世界危機と中国・日本のアメリカ留学事情を振り返るとともに、アメリカの大学がすべき留学生サポートとコロナ禍で台頭するオンライン留学や中国キャンパスでの国内留学プログラムなど、これからの留学形態について中国と日本の留学生動向に着目して考察・提案する。
2 Introducing Can-Do Assessment to Visualize Achievement and Enhance Motivation in English Reading Class (ニュースレター掲載論文)	単著	2022年5月	The University Grapevine, Issue 9	(2) 英語を主専攻としない大学1年生の必修英語リーディング科目において、モチベーション向上と、読解力の向上の可視化を目的に、学生の自己評価アンケートをGoogle Form上で実施した。使用教科書の各ユニットのターゲットスキル明示し、学生はユニットの開始前、終了後に各スキルに対する自信度を5段階評価で回答した。リーディングクラスでもタスクベースの授業展開を目指す。
3 留学経験が大学生の行動特性に与える影響	共著	2025年3月	東京成徳大学国際学部紀要	(3) 高等教育の国際化において留学は重要な役割を担う。本稿は東京成徳大学国際学部の全員留学制度による学生の行動特性変化を「JAOS 留学アセスメントテスト」を用いて分析し、カーネマンの思考システム理論から考察したものである。
4 留学成果の評価におけるデジタルバッジ導入の可能性ー学習成果の可視化と教育の質向上にむけてー	単著	2025年9月	日本生涯教育学会論集46号	(4) 多様化する留学の成果を可視化するツールとしてデジタルバッジの導入可能性を検討した予備的考察を行った。マイクロクレデンシャルに関する文献調査と、米国の留学プロバイダーAPIと東洋大学におけるデジタルバッジ活用事例を分析し、ユネスコ生涯学習研究所の柔軟な学びの道筋のための4フェーズ (RVA-steered, Personalized Learning Pathways) を枠組みとして考察した。結果、デジタルバッジは留学で得たコンピテンシーの可視化と客観的評価を可能にし、生涯学習との接続を促進する可能性を有することが示唆された一方、持続可能性や評価基準の透明性確保などの課題も存在し、効果的な実装には教育と労働市場をつなぐ統合的な資格枠組みの整備が不可欠であると考察している。
5 Australia's International Education Policy Reform: Implications for Study Abroad and Working Holiday Pathways for	単著	2026年	Critical Internationalization Studies Review: Vol. 5:	(5) オーストラリアの留学生政策の変更と日本人留学生への影響に関して文献調査を実施。留学生受け入れに寛容と言われていたオーストラリアだが、COVID-19を経て変化したオーストラリ

<p>Japanese Students</p> <p>6 変容を支える留学レディネス—主体的行動と多様性受容からみる留学教育の課題—</p> <p>7 Reskilling and upskilling in a super-aged society: The Rikyoo Second Stage College (RSSC) model in Japan</p>	<p>共著</p> <p>共著</p>	<p>2026年3月</p> <p>2026年4月</p>	<p>Iss. 1</p> <p>東京成徳大学国際学部研究紀要第4号</p> <p>Implementing effective reskilling and upskilling: learning programmes for older adults, research report</p>	<p>ア社会の状況やニーズに応じて、留学生受け入れの姿勢が変化していることが確認された。この政策変化は短期語学留学が主流の日本人大学生の留学に大きな影響はないと考えられる。一方で、大学卒業後の進路として一定の人気が出てきたワーキングホリデー（ワーホリ）は政策変化の影響を大きく受けている実態を述べた上で、個人のキャリアプランなどを考えた上で安易にワーホリに参加をするのではなく個人の長期的なキャリアプランを考えた上でワーホリを進路として定めるなど慎重になるべきと論じている。</p> <p>（6）本稿では、留学レディネスとして「主体的行動」と「多様性受容」の2つのコンピテンシーに着目し、レディネスの高低が留学経験の効果に及ぼす影響を探るとともに、教育的介入を通じた留学プログラムの質向上を検討した。質の高い留学を実現するためには、学生一人ひとりの背景や特性を考慮し、アドバイジングなどを通じた留学前支援が必要であると考えられる。また留学レディネスやスコアの変化が直線的に発達するものではなく、多様なプロセスが存在する可能性が示唆された結果からは、留学準備期だけでなく、留学中、留学後の段階においても教育的介入の意義を再検討する必要がある。さらに留学経験は直線的な成長をもたらすものではなく、学生が自己変容や学びの意味づけを完成させるまでには時間を要する可能性が考えられる</p> <p>（7）高齢者の学び、リスキリングの国際調査のうち、立教大学の立教セカンドステージ大学を事例に日本のケースを担当。主な執筆担当は受講生のインタビュー内容。</p>
<p>（その他）</p> <p>1 書評 Learning Self Through Shosin in International Education</p> <p>2 学位論文（修士論文） Goal Settings and Learning Outcomes of Japanese Students Studying in the US</p>	<p>単著</p> <p>単著</p>	<p>2021年8月</p> <p>2018年12月</p>	<p>Critical Internationalization Studies Review1(1), 10-11. <a href="https://doi.org/10.32674/cisr.v1i1.4872">https://doi.org/10.32674/cisr.v1i1.4872</a> Lesley University School of Arts and Social Sciences</p>	<p>Dr. Unkule の著書「Internationalising the University: A Spiritual Approach」のブックレビュー、考察。Dr. Unkule は、グローバル教育が活発化する中で初心に戻り、グローバル教育の意義と役割について、スピリチュアルの観点での考察が提言している。国際教育活動は他者理解の促進を期待されるが、まず自己理解を深めるきっかけづくりに共感する。</p> <p>（タイトル日本語訳）「日本人学生のアメリカ留学における目標設定と学習成果」 近年、政府の留学支援政策の効果から、多くの日本人学生が留学している一方、留学の学習成果のアセスメントに欠けており、多くの研究がされていない。この研究は質的調査方法を用い、アメリカに留学する日本人学生の目標設定の役割を検証し、学生の抱えている課題を理解することを目的としている。結果より、自信や人間関係の構築などのスキルは留学による学習成果として注目されるべきであると考え、学生の留学経験において新たな見方を提示している</p>
<p>（注）「研究業績等に関する事項」には、書類の作成時において未発表のものを記入しないこと。</p>				